

Installation Manual

施工マニュアル

Interface®



本マニュアルは、インターフェイスのタイルカーペットを施工する、専門
工事業者の方をサポートする目的で、インターフェイスの技術部が
作成しました。

本マニュアルは、通常の施工環境の場合のほぼ全てのケースをカバーして
おりますが、マニュアルに記載のない特殊な条件の場合は必ず担当窓口
にご連絡ください。

万一、全体工事の完了前にインターフェイスのタイルカーペットを施工し、
その後の作業等によりなんらかのシミ、汚れ、汚損、損傷が発生した場合、
施主様への製品保証が無効となりますので、ご了承ください。

目次

001	始める前に	PG4
002	資材の準備	PG4
003	床の準備	PG4
004	施工の位置決め	PG6
005	感圧性接着剤 — インタータック®	PG8
006	接着剤の塗布	PG8
007	タックタイル™	PG9
008	タックタイル™の位置決め	PG9
009	タックタイル™下地床準備の必要条件	PG11
010	床暖房上への施工	PG12
011	施工方法	PG12
012	施工の開始	PG12
013	フリーアクセスフロア	PG13
014	階段	PG13
015	施工後の備品と家具の設置	PG14
016	仕上げ・片付け	PG14
017	おわりに	PG14
018	クッションバック製品	PG14
019	バックング材不使用のシート製品	PG16

付録

001	コンクリート下地床の必要条件	PG16
002	湿度およびpH検査値	PG17
003	インターフェイスの施工方法と短縮コード	PG18
004	インターフェイスのプランク製品の施工方法	PG19

01 始める前に

施工業者の方は、はじめに、届いた資材の製品名・色・数量等と、敷設場所の仕様とを照合する義務があります。

製品パッケージのラベルには、製品名、色、製造ロット(Dye Lot)を含む重要な情報が記載されています。

同じエリアに異なる製造ロットの製品を混ぜて施工することはお勧めしません。ただし、i2コレクションについては、異なる製造ロットで貼り合わせることができ、仕上がりに統一感をもたせられます。

製品パッケージには、メーカー推奨の製品別施工パターンが印刷されているので、確認してください。ただし、施主様の希望により指定された施工パターンがある場合、施工業者の方は施工前に確認して署名してください。

02 作業に適した環境

施工開始の48～72時間前から、施工エリアと全製品の温度を必ず15～35℃に保ってください。施工中も一貫して前述の温度の範囲を維持してください。作業域内の相対湿度は、必ず45%±10%になるように設定してください。

03 床の準備

下地床は、固く、十分に乾燥しており、平滑、平坦、水平、堅固、清潔で、製品に瑕疵を与える物がない状態にしてください。グラスバック(PVCバック)使用のタイルカーペットの施工では、アスファルト性の物質にグラスバックを直に接触させないでください。

タイルカーペットに、たわみがないようにするために、下地は堅固で、湾曲のない状態である必要があります。

既存のカーペットや、カーペット用の下地フェルト、床からの剥離がみられるPVC床材、クッションバック材、古い接着剤などを全て除去し、下地をきれいに仕上げます。

きれいな床 — 床には汚れ、ほこり、有害な物質が全く無い状態にしてください。インタータック接着剤を塗る前に、下地床を清掃、モップ掛けしてからバキュームを掛け、ホコリ等が全くない状態にします。コンクリートや木質の床にインタータック(接着剤)を塗布する前に、ARDEX P60など認証されたプライマーを下塗りします。

乾燥した床 — どのようなタイプの床でも十分に乾燥していることが必要です。新しいコンクリート床は、必ず湿度を計測し、インターフェイスの推奨値と照合して下さい。

インターフェイスの本施工マニュアルの付録1に記載のある湿度レベルを超えないようにしてください。万が一、湿度が推奨最大値を超えている場合は、施工を中止し、貼り進めないでください。続行する時には、インターフェイス(03-5733-5211)までご連絡、ご相談ください。

pH値が低いこと — カーペットの施工に適した下地のアルカリpH値は、pH7～pH9です(付録1参照)。pH値がこの基準値を外れる場合、施工を中止し、貼り進めないでください。続行前に、インターフェイス(03-5733-5211)までご連絡、ご相談ください。



注：不浸透性バックングの床材を、シーリング剤を施した床に施工する場合、水性の接着剤は、感圧性接着剤を除き、使用しないでください

下地のタイプを識別

新しいコンクリート床 一付録1と2に記載の通り、平滑且つ水平で、十分に乾燥している状態。

古いコンクリート床 一塗料、シーラー、グリース、油、接着剤、及びタイル製品に害を与える、あらゆる物質を取り除いてください。特にアスファルト性物質は、グラスバック・バックングのタイルカーペットに適さないので必ず取り除いてください。既に塗布されている接着剤を完全に床から除去し、割れや穴がある場合は補修して平滑にしてください。推奨された補修剤をメーカーの取扱説明書に従って使用し、表面を付録1記載の仕様に整えてください。床を平滑にする材料は、接着剤及びカーペットのバックングと相性が良い物を選択してください。

ビニールタイル 一破損したビニールタイル及び下地から剥離しているビニールタイルは交換、あるいは補修し、ワックスが塗布された既存の床材は全て撤去するか、ワックスを完全に除去します。又、グラスバックを使用したタイルカーペットを施工する場合、アスファルトベースの接着剤や下張りが残っている場合は、全て取り除きます。

既存のビニールタイルの上への重ね貼りは推奨しません。ビニールタイルと下地床の間の接着剤が、タイルカーペットの製品寿命と同等であることを確認してください。

お客様の判断によりシーラーを使用する場合は、それに付随するいかなる結果も、弊社では責任を負いかねますのでご了承ください。

セラミックタイルとストーンタイル 一付録1に記載の通り、継ぎ目は全て埋め、平滑且つ水平になります。粗いサンドペーパーを使い、表面の光沢を除去します。

木質系の床 一溝、突起、割れ目、穴、その他同様の欠陥が全くない場合を除き、下地用の捨て貼り材を使用することをお勧めします。

下地用の捨て貼り材 一下地用の捨て貼り材には、MDFか、MDFセメントシートを使用し、施工に使う資材には、インターフェイスのタイルカーペット、及びインタータック（接着剤）と相性が良い物を使用してください。施工には、下地用の捨て貼り材メーカーの取扱説明に従って行ってください。

シーラー／防湿バリア 一コンクリートの床にシーラーを使用する場合、PVC(ビニール材)との相性が良く、かつ溶剤形若しくは水性のシーラー(アクリル、エポキシ、ウレタン、塩化ゴムなど)を選択し、シーラーメーカーの取扱説明書に従って使用してください。不明な場合は、シーラーをタイルカーペットの裏に塗布し、24時間置いて、べた付きが確認された場合は、使用しないでください。

※静水圧防湿に適したシーリング剤の例としては、ARDEX社製 - WPM300エポキシ剤など

※新築コンクリートの防湿に適したシーリング剤は、ARDEX社製 - S8スラブシールなど

04 施工の位置決定

概略

位置決定をします。部屋の中で一番長い壁と平行なライン上で、タイルを最初に並べる位置が始点(貼出基準点)です。

手順

位置決定における手順は、図1と以下のとおりです。

ステップ 1

部屋の中で一番長い壁と平行なEF線を引きます。

ステップ 2

壁際など端末の部分に配置されるカーペットの長さがフルタイル(一辺50センチ)の3分の1以上になるように、E-F線上にX点を決定します。

ステップ 3

X点から左右3メートルの距離に点を取り、それをJ1点、J2点とします。

ステップ 4

J1点とJ2点を中心にした半径5メートルの弧をそれぞれ描き、2つの弧が交わる点をK点とします。

ステップ 5

K点とX点を結びます。K-X線はE-F線と90度に交差します。

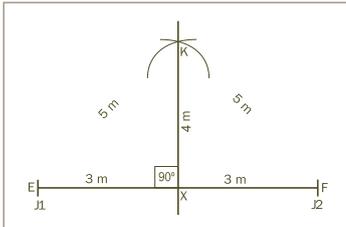


図 1

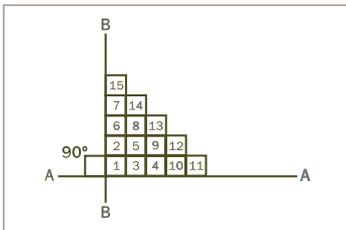


図 2

一部屋を施工する場合

ステップ 1

図1に従い、90度に交わる2本の線を墨出しします。裁断の必要がないカーペットを歩行量の多いエリアに施工するため、及びその他、施工に必要な条件のために、この線は中心から少し離れた場所に引く場合があります。

ステップ 2

必ず2線の交わった点を貼出規準点として、ここから施工を開始します。必ず階段方式に一列毎並べてください。

ステップ 3

図2の通り、貼出規準線になる部分のタイルを固定します。残りの部分も、階段方式に並べていき、完了させます。

ステップ 4

四分割した残りのセクションについても、1セクションごとに順番に完成させます。

扉周りや重歩行エリアには、なるべくカットしたタイルカーペットを使用しないで下さい。



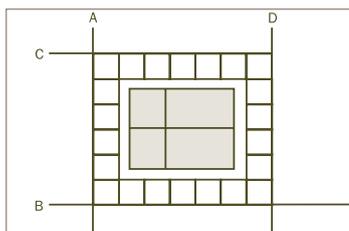


図 3

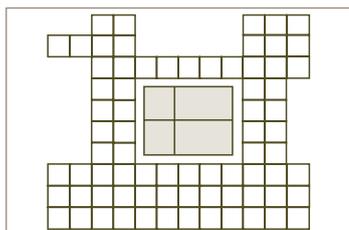


図 3 b

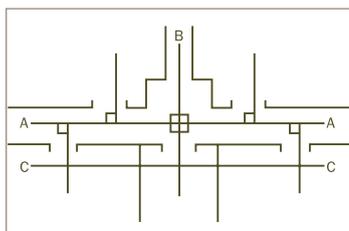


図 4

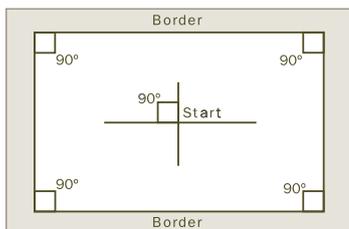


図 5

障害物のある広い部屋

例: エレベーター

ステップ 1

図3aのように、90度に交わるA線とB線を墨出しして、貼出基準点を決めます。

ステップ 2

A線とB線に沿って、障害物から少なくとも1と1/3枚分以上の間隔をとります。この時点で、A線とB線に平行なD線とC線が決まります。

ステップ 3

A線とB線の間にタイルカーペットを並べ完成させます。(図では、一列だけ並べています)

ステップ 4

続けて残りの部分を施工します。図3bのように、4分割したセクション毎に施工します。

オフィスビル

ステップ 1

図4の例では、交差点、中央通路、中央の踊り場が、貼り出しの始点になります。ここでも、A線とB線が90度に交わります。

A線に沿って始点の両側に一列にカーペットを並べます。途中、各個室入口毎に、A線から90度の線を引きます。壁面周りなどのカーペットのカットも含め、通路の作業を完成させます。

ステップ 2

各個室に向かって、カーペットを並べ、固定します。こうしてA線と平行なC線が引け、施工エリア全体の墨出しが出来ました。図3で説明した階段方式で、施工を完成させます。

ステップ 3

扉のある場所を含む通路部分カーペットのカット作業を全て終えます。残りの部分をC線に沿ってカーペットを並べ、固定します。

ボーダー

ボーダー部分とメインの部分が適切に明示される墨を出します。ラインが直角に交差する部分は、全ての90度角が正しく出ているかを確認してください。このラインを基準線としてカーペットをカットします。壁になんらかの凹凸がある場合、ボーダー側のカーペットをカットして、規準線に合わせます。図5を参照。



05 感圧性接着剤 — インタータック®

注： 施工を始めるごとに必ず新品の毛足の長いローラーを、使用して下さい。

注： 病院ベッドの下、斜面、重歩行エリアなど特定の条件では、下地床により強固に接着させる必要があるかもしれません。

注： より強固に接着させるには、多めに接着剤を塗布する必要があります。例：V字切り込み櫛目コテV1タイプを利用して塗布。その後、タイルを半乾きのインタータック上に施工すると、接着力が相当程度上昇します。

注： オープンタイムは作業エリアの温度や湿度、その他現場の諸条件により変化します。

全てのインターフェイス製品は、タックタイルを利用する場合とメーカーが指定する場合を除き、必ずインタータックを100%用いた施工をしてください。

インタータックは、低臭で、溶剤を一切含有しない感圧性接着剤です。下地は、必ずインターフェイスが推奨する状態に整えてください。

凹みやクラックのある箇所は全て、必ずARDEX P60などの推奨された下地補修材²を使用してください。

インタータックを塗布する前に、下地床にバキュームを掛けて清掃し、塵、埃等を全て除去します。

06 接着剤の塗布

インタータックは、感圧性接着剤です。通常の施工要件では、毛足の長いローラーを使用してください。下地の状態によりですが、1リットルあたり10～14㎡がインタータックの標準手配量です。無孔材の床では14㎡以上の塗布が可能な場合もあります。

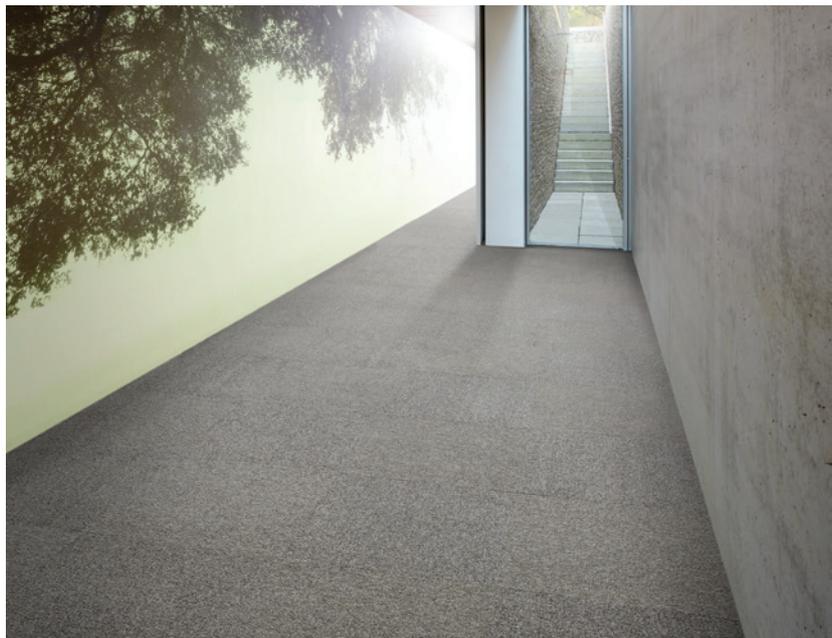
まず下地の湿度とpH値を調べ、適切な数値の範囲内にあることを確認するまでは、接着剤の塗布を開始しないでください。もし、下地の湿度又はpH値が適切とされる値より高かった場合、改善を終えるまでは、施工を開始しないでください。付録の1と2を参照してください。

タイルを施工する前に、インタータックの粘着性が発揮されていることが必須条件です。接着剤の色相が緑色から半透明に変化し、インタータックがタイルカーペットのバックング側に付着しないような状態になってから、タイルの施工を開始します。

接着剤の使用者は、インタータックの使用によって生じる全てのリスクに対する責任を負います。プロジェクト毎の具体的な条件下で、試験的にインタータックの適合性、塗布テストを行うことをお勧めします。

注： 施工毎に必ず新品の毛足の長いローラーを、使用してください。

注： 強固な接着力が必要とされる、特殊な環境の場合、粘着性が発揮され始めた状態のインタータック上にタイルカーペットを施工することが可能です。インタータックの接着力が相当程度上昇し、より強固な接着力が得られます。



注：グラスバック又はグラスバック・リのタイルの施工では、同じタックタイルを2回までの施工に使用することが可能です。許容回数を超える場合は新しいタックタイルを使用してください。

注：グラフレックスやグラフラー（ビチューメン）バックキングのタイルを施工する場合、タックタイルは貼り替えごとに新しいものを使用してください。

注：ビチューメンバックキングやクッションバックキング製品は、必ずグラフレックス・タックタイルを使用してください。

注：グラスバック、グラスバック・リ製品は、必ず標準タックタイルを使用してください。

注：フルタイルに隣接するカットされたタイル全てに、必ずタックタイルを使用してください。

ブリック貼り、アシュラー貼りの施工では、必要に応じて、タックタイルを全ての継ぎ目に使用してください。より多くのタックタイルが必要だと販売会社が判断した場合はその裁量に任せられますが、使用枚数に制限はありません。

07 タックタイル™

グラスバックとグラスバック・リ — グラスバックとグラスバック・リバックキングのタイルの施工には、標準的なタックタイルを使用してください。既存のタイルカーペットを張り替える場合、カーペットをタックタイルから剥がし、そのタックタイルの上にそのまま新しいカーペットを施工します。

グラフレックス、グラフラー、クッションバック — グラフレックス用のタックタイルを必ず使用してください。カーペットを貼り替える場合、施工の質を維持するために新しいタックタイルを使用してください。

タックタイルの接着強度が最高に達するのは、4時間以上後です。

タックタイルを使用すれば、床を整える準備は最小限で、木質系、磁器質、せつ器質系、石質系の床に直接施工可能です。湿度とpHレベルがインターフェイスの推奨する数値内に収まるようにしてください。

インターフェイス推奨の方法により、施工・メンテナンスが実施されれば、タックタイルは施工後、カーペットが剥がされるまで、または貼り替えられるまで効果的に機能します。

転動荷重 — タックタイルは、通常の台車（例：キャスター付椅子、手動台車など）が使用されるエリアにも使用可能です。

重量の大きい台車（パレット用カート、フォークリフト、シザーリフト等）の使用に関しては、インターフェイス(03-5733-5211)までお問い合わせください。

傾斜のある床 — 傾斜のある床にタックタイルの使用はお勧めしません。ピールアップ接着剤・インタータックをお勧めします。

08 タックタイル™ の位置決定

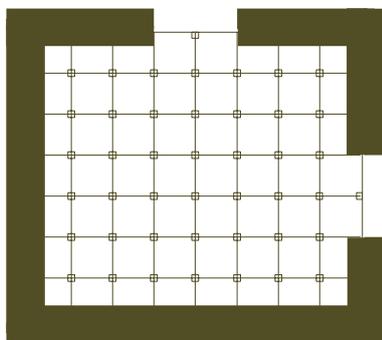
市松貼り、流し貼り、ランダム貼り

タイルの角の部分の全箇所と、そしてカット処理したタイルとそれに隣接する全体部分のタイルとの間全てに、タックタイルを必ず使用してください。

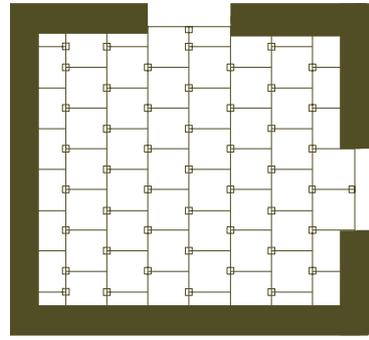
ブリック貼り、アシュラー貼り

使用タイルの全ての角、そしてカット処理したタイルと隣りのタイルの間全てに、必ずタックタイルを使用してください。

以下の図の通りにタックタイルを貼ってください。



市松貼り、流し貼り、ランダム貼り施工には、1平方メートルあたり4枚のタックタイルが必要です。



ブリック貼り、アシュラー貼り施工には、1平方メートルあたり4枚のタックタイルが必要です。

プランクタイル

タックタイルを接続部に使用する

注：一般的なタックタイルの使用枚数は、プランクタイルのサイズと施工方法により変わります。

施工方法	50cm×1mプランク	25cm×1mプランク
市松貼り	3枚/1㎡	7枚/1㎡
アシュラー貼り	4枚/1㎡	8枚/1㎡
ヘリンボーン貼り	4枚/1㎡	7枚/1㎡

隣り合うタイルとタイルが接触するラインの中心に、さらにタックタイルを使用する必要があるケースもあります。必要に応じて、担当窓口へご相談ください。

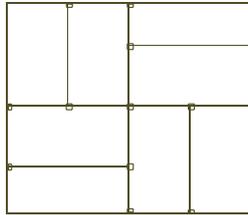
階段、傾斜路、傾斜エリアにはタックタイルを使用しないでください。

すべての隣り合うタイルとタイルが接触するラインのエッジの真ん中に、タックタイルを使用して、アンカーになる列のタイルを並べます。その後、同様に、その他すべての隣り合うタイルとタイルが接触するラインのエッジの真ん中に、タックタイルを使用して、残りのタイルを手順に沿って施工します。

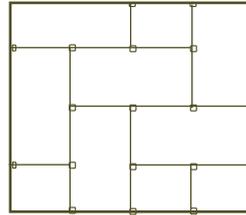
タックタイルは、下の図に示した様に配置してください。

50cm X 1m の場合

市松貼り

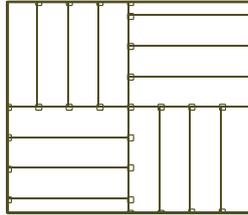


ヘリンボーン貼り

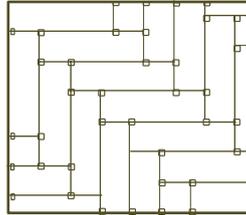


25cm X 1m の場合

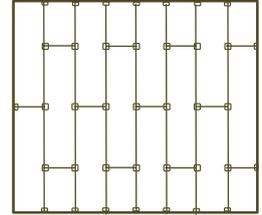
市松貼り



ヘリンボーン貼り



アシュラー貼り





注：下地となる床の湿度とpHレベルが定められた値を超えている場合、バリアコーティングを施して、湿度とpHレベルの上昇を防ぐことを推奨します。

正しい下地の準備、または救済策の実施を怠った場合、製品保証が無効となりますのでご注意ください。

インターフェイスのタイルカーペットを施工する場合のみ、タックタイルを購入、使用、それに伴う保証を受けることが可能です。他メーカーの床材にタックタイルを使用しても保証は成立しないことをご了承ください。

タックタイル™

注：階段にタックタイル™を使用する施工は推奨しません。

注：カットしたタイルとその隣接するフルタイルの間には、タックタイル™を必ず使用してください。

注：バックイングがグラスバックとグラスバック・リの場合 (通常のタックタイル™を使用)
タックタイルは、撤去、交換されない限り(施工されている間)効果を発揮します。

タイルカーペットの貼替をおこなう場合、タックタイルは2回目の施工まで利用可能です。尚、完全な状態で製品の接着効果を持続させるために、それ以後の施工では新しいタックタイルに交換する必要があります。

注：バックイングがグラフレックス、グラフラーの場合 (グラフレックス用のタックタイル™を使用)
グラフレックス・タックタイルでは、撤去、交換されない限り(施工されている間)効果を発揮します。

タイルカーペットの貼替をおこなう場合、完全な状態で製品の接着効果を持続させるために、それ以後の施工ではタックタイルは施工毎に新しいものに交換する必要があります。

09 タックタイル™ の下地となる床の準備における必要条件

湿度とpHレベルがインターフェイスの推奨する数値の範囲内に収まっている場合は、下地を整える準備は最小限ですみます。タックタイルを使用して、木質系、磁器質系、石質系の床に直接カーペットを施工できます。付録1と2を参照。

下地床の湿度とpH値必要条件に関する注意

湿度検査方法

湿度計(プローブを使った検査、または フード付き密閉型湿度計)

タックタイルのみで施工する場合、湿度は80%以下であること。80%より高い場合は、付録1と2を参照してください。

下地床のpH値の条件

タックタイルのみで施工する場合：pH値：9以下であること。pH値が9より高い場合は、付録1と2を参照してください。

10 床暖房への施工

インターフェイスのタイルカーペットは、表面温度が27℃を超えない場合に、床暖房の上に施工可能です。

床暖房は必ず、施工開始の48時間前に電源をオフにしてください。また、接着剤を定着させるため、施工後48時間は、床暖房の電源を入れないでください。

11 施工方法

インターフェイスのタイルカーペット製品は全て、箱ごとに印刷された施工方法のとおり施工する必要があります。箱に印刷された手順とコードは以下の通りです。(500mm角、600mm角のタイルの場合)

- DIR 流し貼り
- QTR 市松貼り
- RDM ランダム貼り
- SPEC 指定された方法 (P17の図を参照)

SPECと記載されている場合、クライアントが指定する施工方法を確認してください。

以下の施工方法は500mm×1mと、250mm×1mのブランクサイズのタイルの場合に適用されます。

市松貼り
ヘリンボーン貼り
アシュラー貼り

施工の開始前に、施工方法を確認することは、施工業者の方の責務となります。

12 施工の開始

推奨された方法で専用接着剤インタータックを塗布します。チョークラインの左右両側にタイルカーペットを一列並べてから、階段方式でタイルを配置します。万が一、格子の目が整っていないくても、この方法が進めれば間違い等に気づきやすくなります。

整列させる

タイルカーペット同士がせり上がらないよう、(指で)継ぎ目をそれぞれチェックし、正しく整列しているか確認してください。直角が1mm以上ずれているタイルは、施工しないでください。

テンション

タイルが初めから終わりまで同じテンションで並んでいることを確認してください。テンションは全体の外観を左右する欠かせない要素です。

隙間があったり、パイルが噛んでいると、タイルカーペット製品自体の性能を発揮できなくなったり、完成時の外観不良につながります。

テンションが強すぎる場合は、タイルがせり上がります。

グラスバック及び、グラフラー製品を並べた際の累積の隙間は、11枚のタイル(接合部が10箇所)の場合、必ず5mm程度となるようにしてください。5mmより少ない場合、せり上がりや巻き込みが生じる可能性があります。

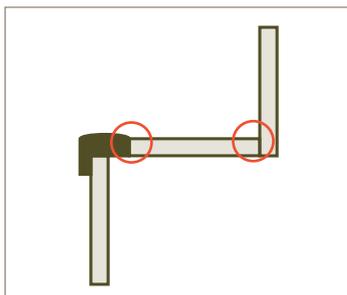
注：ニードルパンチ製品は全て、市松張り施工にする必要があります。

注：重歩行エリアやカートを使用するエリアなどで、タイルカーペットを斜め切り、又は縁でカットする場合、ラテックス系シーリング剤を施してください。

注：硬質系床材等と隣接して施工する場合、タイルカーペットのパイルの一番高い部分が、硬質系床材等のエリアと同じ高さにあることを確認してください。もし、パイルが隣接エリアよりも高く、歩行量が多い場合、異素材に隣接するカーペットの端部が損傷する可能性があります。

注：フリーアクセスフロア上では、インタータック1ℓあたり、14㎡以上の割合で塗布できる場合があります。

注：カーペットを段鼻の内側まで、奥行とぴったり重ねて施工する事が重要です。それにより、続く段鼻の角を固定することができ、カーペットの振動、緩みを防止します。



カット

インターフェイス製品は全て、裏側、つまりバックング材側からカットしてください。タイルカーペット同士を重ねて、印をつけてカットします。柱の周りなどのカットは、定規等を使用してください。

ステップ1 最初は、貫通させようとはせず、軽く切って切りシロを確保します。

ステップ2 切りシロに沿ってタイルを湾曲させて折ります。

ステップ3 厚切り用のカッターナイフか、フックナイフで繊維まで完全に切り離します。

※(注) ナイフなどの刃物の取り扱い場合には、手元に十分注意して作業してください

13 フリーアクセスフロア(2重床)

フリーアクセスフロアでのオフ・グリッド施工 — 50cm x 50cmのタイルカーペットの場合

フリーアクセスフロアにおけるオフ・グリッド施工とは、フロアパネルのジョイント部分とタイルカーペットのジョイント部分が、重ならないように施工することです。インターフェイスが推奨する通常の施工方法で実施してください。

インタータックとタックタイルの両方とも、フリーアクセスフロア上の施工に適しています。

フリーアクセスフロアでは、インタータック1ℓあたり、14㎡以上の割合で塗布できる場合があります。

14 階段

階段の段鼻

インターフェイスのタイルカーペットを、階段の段鼻で直接使用することはできません。段鼻には使用するタイルカーペットに適應した金属や合成ゴムなどのノンスリップ材を使用してください。

蹴上

インタータックを、タイルカーペットのバックング(裏面)と蹴上部分の両方に塗布して下さい。

インタータックの粘着性が上がるまで待ってから、タイルカーペットを施工すべき箇所に施工してください。

踏面部分

インタータックを、踏面部分に全面塗布して下さい。

踏面部分が蹴上部分をしっかりと固定するように、蹴上を施工してから踏面を固定させる必要があります。(施工は、蹴上⇒ノンスリップ⇒踏面の順になります)

15 施工後の備品及び家具の設置

カーペットの施工後に、什器備品を設置する場合は、カーペットのずれを防ぐため、カーペットの上に合板か段ボール等を敷設して養生を実施してください。

プラスチック製の保護材を使用するなどして、カーペットに何らかの凝結が起きた場合は、全て施工業者の責任となります。

タイルカーペットのパイルの上に、接着テープ等を直に置かないでください。

16 仕上げ・片付け

端末部分の固定 - 壁のない空間では、見切材などで敷設状態を固定することを推奨します。端末部分を固定する資材は、カーペットと同じ高さで、仕上がりの高さでカーペットのパイルの高さとの間に段差がなく、人や台車の通行がカーペットから他の床材へ、又その逆方向へもスムーズに移動できるようにします。

はみ出したパイル等は全て、刈り込みハサミで整えます。

全ての1/12ゲージ製品は、仕上げ工程の一環として、パイルがはみ出していないか徹底的にチェックして、目につくパイルは刈り取ることを強く推奨します。

仕上げにバキュームをかけ、パイル・リフター（繊維起毛処理機材）（注）をかけてください。

全体の仕上がりを見て、隅々まで一貫して外観不良がないことを確認して下さい。タイルの方向を含め不具合があれば、直ちに修正してください。

完了時、再度バキュームと、パイル・リフター（注）をかける必要がある場合があります。仕上がりに状態をより明るい環境でチェックするために、当該エリアでは照明を必ず使用してください。

※（注）スーパーフロア、フラットウィーブ等、ニードルパンチや平織りタイプの製品には、パイル・リフターは絶対に使用しないでください。

17 おわりに

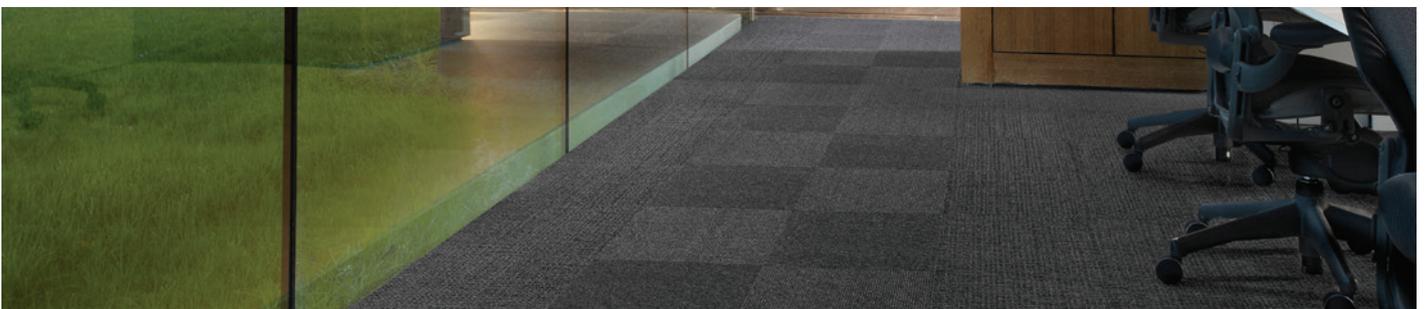
これらのいかなる指示に関するいかなる手違いも、施工業者の責任となり、メーカーでは責任を負いかねます。そして、全ての、もしくは該当する保証が無効になることがあります。

これらの施工手順はメーカーが推奨する手順です。施工は必ず、経験を積んだ、求められる能力をもつカーペット施工業者の方によってのみおこなわれるものとします。これらの手順を厳密に遵守すれば、ほとんどの施工の場合、質の高い結果を得ることが可能です。資材の不良、適応しない資材の使用、または通常ではない施工条件など、本手順の変更を余儀なくされる場合には、施工業者の方が手順を進める前に施主様及びメーカーの両者にその旨を通知する義務が生じます。

これらのいかなる指示に関するいかなる不一致も、施工業者の責任となり、メーカーは責任を負わず、また、全てのもしくは該当する保証が無効になることがあります。

18 クッションバック™

クッションバックのタイルカーペットには、V1櫛目の「櫛目こて」を使用して、インタータックを1㎡あたり5㎡程度塗布します。その他の施工の詳細については、通常パッキングの施工手順に従ってください。





付録

19 バッキング材不使用のシート製品

適正に準備した表面に、ARDEX AF241接着剤を、A2櫛目コテで全面塗布して下さい。

01 コンクリート下地の必要条件

1 下地の状態

コンクリートの下地は、基準に準拠した適切な建設工事によるもので、湿度上昇の可能性なく完了していなければなりません。

2 表面

(a) 平滑であること

3mの直定規を表面上のどの地点に置いて、表面と定規との間に5mm以上のすき間ができないようにしてください。

(b) 仕上げ

新しいコンクリートの床は、金属製のコテで表面をなめらかにする必要がありますが、磨き上げのレベルである必要はありません。擦り傷や溝、陥没がなく、異物はこすり落とした平滑な状態にしてください。

3 乾燥度

施工開始前に、下地となる床の乾燥度を確認する必要があります。湿度計で計測した相対湿度が75%以上の場合、インターフェイス及びヒューガのタイルカーペット製品に専用接着剤インタータックは使用できません。相対湿度80%以下の場合、タックタイルが使用できます。コンクリートスラブの相対湿度が80~90%の場合は、まず最初にARDEX S8スラブシール等のシーリング剤を使用する必要があります。その後、タックタイルでインターフェイスのタイルカーペットを施工してください。

現場の湿度を自然な状態で測定したか、又はフード付き密封型湿度計を用いて湿度を測定したかに関わらず、湿度検査は必ず、相対湿度を計測する湿度計を用いて測定してください。インターフェイスは、相対湿度計測器を使用しない環境湿度の測定は推奨しません。

万が一、湿度が推奨最大値を超えている場合は、施工を中止してください。施工を続行する前に、インターフェイス(03-5733-5211)にお問い合わせ下さい。

4 清潔さ

施工開始前に、グリース、油、塗料、既存の床材などの異物、また、その他タイル製品に有害なあらゆる物質を取り除いてください。表面加工剤、古い接着剤など、これらすべては新しい接着剤に対して悪影響を及ぼし、カーペットの固定度合に影響を与える恐れがあるため、必ず処理するか除去してください。その後、床にバキュームをかけて洗浄し、接着力が完全になるよう、施工環境を整えます。

注：第17頁の表、湿度及びpH値の検査結果による推奨施工方法を参照のこと。

5 多孔質下地の場合

平滑に研磨されたコンクリートやその他の床材は全て、バックング材と相性が良いシーリング材でシーリング加工を施してください。

6 アルカリ度 (アルカリpH値)

タイルカーペットの施工に適した下地のアルカリ度は、pH7～pH9です。コンクリートスラブのpH値がpH9～pH12の場合、まず最初にARDEX S8スラブシール等で下地をシーリング加工してください。その後、タックタイルでインターフェイスのタイルカーペットを施工します。下地のアルカリ度の検査を行うには、まず蒸留水で床を湿らせ、pH試験紙かpH計測器で行ってください。

pH値が当社が推奨する値を超えている場合、施工を中止してください。施工の続行前に、インターフェイス(03-5733-5に連絡、ご相談ください)。

注：適切なpH検査手順に関して、ASTMF710-08を参考にしてください。

02 望ましい湿度およびpH検査値

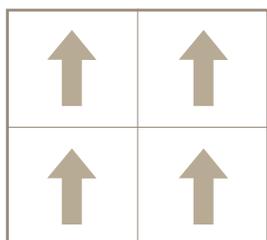
湿度及びpH検査値	インターフェイス施工システム
相対湿度75%未満かつpH9以下	タックタイル™ 又は インタータック
相対湿度70～80%かつpH9以下	タックタイル™
相対湿度80～90%かつpH12以下	ARDEX S8スラブシールでシーリングし、タックタイルで施工
相対湿度70～80%以上かつpH12以下	現場に特定したアドバイスをしますので、担当窓口ご連絡して下さい。

注：インターフェイスのタイルカーペット施工開始前に、全ての新しいコンクリート床と、レベリングが施された床の湿度とpH値を検査することは、極めて重要です。相対湿度値とpH値の結果を以て、上記の表に従って、正しい施工方法を選択してください。

床の検査を実施しなかった場合、施工されたタイルカーペットに対する全てのインターフェイスの保証が無効となりますのでご了承ください。

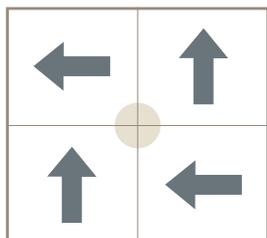


03 インターフェイス施工方法とコード



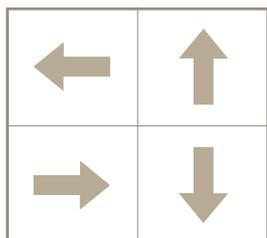
流し貼り施工 — コード DIR

パイル方向を示す矢印が、各タイルカーペット裏面に刻印されています。タイル全てが、同じ方向に向くよう施工して下さい。



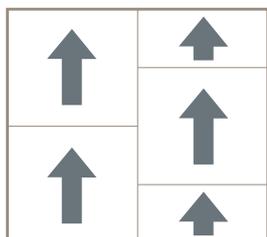
市松貼り施工 — コード QTR

一枚ごとに、矢印を90度ずつ回転させて施工してください。



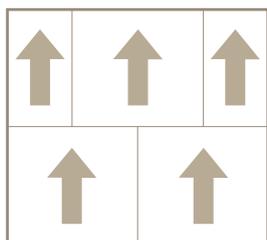
ランダム施工 — コード RDM

矢印に関係なく、施工することができます。



アシュラー貼り施工

アシュラー貼りでは、図のように縦方向にタイルの角を半分ずらして施工します。全ての矢印を同方向に向けて施工して下さい。

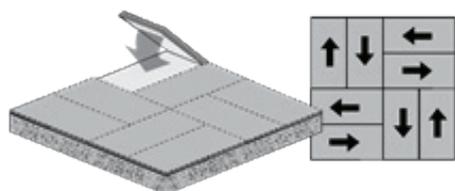


ブリック貼り施工

ブリック貼りは、図のように前列と後列のタイルの角をずらして施工します。全ての矢印を同方向に向けて施工して下さい。

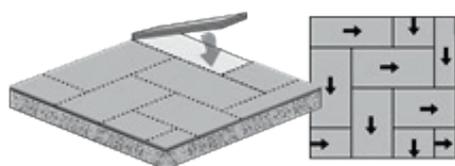
コード SPEC — 指定の方法とは、流し貼り、市松貼り、アシュラー、ブリックのいずれかを意味します。箱の内側に刻印されたコードは、メーカー推奨の施工方法を表します。然しながら、施工業者の方は、自らの責任において、施工開始前に施主様指定の施工方法を確認する必要があります

04 インターフェイス プランクタイトルの施工方法



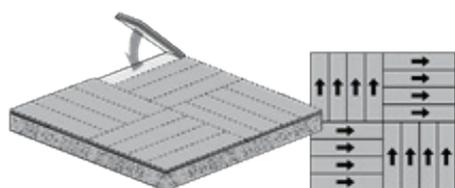
市松貼り (50cm×1mのプランクタイトルの場合)

2枚のプランクタイトルの並べて、その2枚を一組として90度回転させて市松貼りを作ります。
注：一組のプランクタイトルの方向は同方向としないようにします。



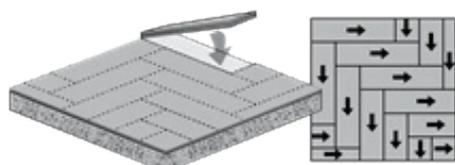
ヘリンボーン貼り (50cm×1mのプランクタイトルの場合)

プランクタイトルのL字型に施工して、ヘリンボーン型に施工します。



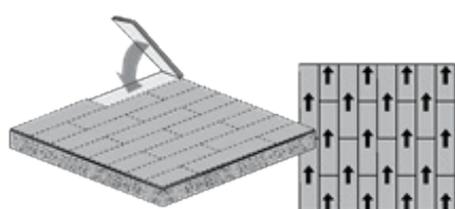
市松貼り (25cm×1mのプランクタイトルの場合)

4枚のプランクタイトルの1組として90度回転させて施工します。
注：一組のプランクタイトルの方向は同方向となるようにします。



ヘリンボーン貼り (25cm×1mのプランクタイトルの場合)

ヘリンボーン貼りは、プランクタイトルのL字型に施工します。



アシュラー貼り (25cm×1mのプランクタイトルの場合)

このパターンはタイルを半分ずつずらして施工します。バックキングの矢印方向は同じ方向とします。

タイルの箱に記載の施工コードはメーカー推奨の施工方法です。但し、施工前に施主様の希望する施工方法を確認することは、施工を行う方の責任となります。

www.interface.com

South East Asia

Interface Asia
tel: 65-6478 1510
www.interface.com

日本

Interface Japan
tel: 03-5733 5211
www.interface.com

Beijing Studio

Interface China
tel: 86-10-6590 7810
www.interface.com.cn

Hongkong Studio

Interface China
tel: 852-2802 0838
www.interface.com.cn

Shanghai Studio

Interface China
tel: 86-21-6340 3868
www.interface.com.cn

Australia

Interface Australia
local toll free: 1800 008 101
www.interface.com

08/2013

